

運転する前に

あなた自身の安全と公衆の安全は、シートやミラーの調節、シートベルトの着用、車両の点検、ドアのロック、視界を邪魔するものがない状態を維持すること、車両内または外部に積載したものを固定するなど、運転する前のあなたの行動に左右されることがあります。

保険加入の義務

ワシントン州で登録してある車両を運転するには、自賠責保険に加入し、加入証明書を所持していなければなりません。政府所有の車両、自動二輪車、一般または契約運輸業者の車両を運転するドライバーには、この保険に加入する義務はありません。

以下に示す内容を提供する、州公認保険会社または保証業者の、自動車損害賠償責任保険または保証に加入しなければなりません。

- 衝突事故により、1人の身体の傷害または死亡が起こった場合、支払額 25,000 ドル以上。
- 1件の衝突事故により、2人以上の身体の障害または死亡が起こった場合、支払額 50,000 ドル以上。
- 1件の衝突事故により、相手側の所有物を損傷または破壊した場合、支払額 10,000 ドル以上。

車両の点検

運転する車両の安全性は、ドライバー自身の安全の第一歩であり、運転する車両が安全に操作するかを確認するのはドライバーの義務です。正しく作動しない車両は危険な上、よく維持されている車両よりも走行費がかかります。路上で故障してしまったり、衝突事故を引き起こすことがあります。車両が正しく作動しなければ、緊急事態を回避できないかもしれません。正しく作動する車両なら、必要なときに、より高い安全性が得られます。

車両の操作マニュアルの指示に従い、定期的にメンテナンスを行ってください。メンテナンスには、自分でできる作業や、資格のある修理工が行なわなければならない作業もあります。簡単なチェックを行なうことにより、路上のトラブルを防止することができます。

ブレーキ - ブレーキだけがあなたの車両を停止できます。正しく作動しないブレーキは非常に危険です。正しく作動していないようであったり、大きな音を出す、へんな匂いがする、またはブレーキペダルを踏むと床に届いてしまうなどの場合は、修理工にチェックしてもらいます。

ライト - 方向指示器、ブレーキライト、テールライト、ヘッドライトが正しく点灯することを確認します。これらのライトは、車両の外に出て確認すべきです。ブレーキライトは停止することを、方向指示器は右折/左折することを、他の道路利用者に知らせます。

ヘッドライトの位置がずれていると、正しく前を照らすことができず、また他の車両のドライバーにとってまぶしく、視界をさえぎるおそれがあります。夜間視界が良くないと思うとき、また他のドライバーが頻繁にヘッドライトを点滅させて合図を送ってくるのであれば、修理工にヘッドライトをチェックしてもらいます。

フロントガラスとワイパー - 損傷のあるガラスは、軽い衝突やフロントガラスに物が当たった際、割れやすくなるため、補修や取り替えを行います。

フロントガラスのワイパーは、雨や雪をぬぐうものです。リアウインドウやヘッドライトにワイパーの付いている車両もあります。ワイパーがすべて正しく作動するよう確認します。ブレードが水滴をよくぬぐえないときは、新しいものと交換します。

タイヤ - 使い古したタイヤや踏み面の刻みが擦り減ったタイヤは、路面がぬれていると停止するまでの距離が長くなり、右折/左折も困難になります。バランスの取れていないタイヤ、圧力の低いタイヤは擦り減りを早め、燃費が悪くなる上、運転が困難になり、停止しにくくなります。車両がはずむようであったり、ハンドルがガタガタしたり、走行中まっすぐ走行せず左右どちらかに傾く場合、修理工にチェックしてもらいます。

使い古したタイヤは、ハイドロプレーニングの原因になったり、パンクする可能性も高くなります。タイヤの温度が低い時に、圧力計で圧力を測ります。車両の操作マニュアルまたはタイヤの側面を見て、適切な圧力を調べます。

タイヤの溝を1セント銅貨で調べます。銅貨の頭部から溝に差し込みます。溝の深さがリンカーンの頭のところまで(2/32インチ)なければ、タイヤは安全ではなく、また、違法にもなるので新しいタイヤと交換する必要があります。

ハンドル - ハンドルが正しく作動しなければ、進みたい方向に車両をコントロールするのは困難です。一度ハンドルを切ってもその方向に曲がりにくいとき、もしくは曲がれないときは、修理工にハンドルをチェックしてもらいます。

作動中は車両の鍵を「ロック」位置に入れないで下さい。車輪がロックされ、ハンドルを回そうとしても車両をコントロールできなくなります。

サスペンションシステム - この装置は、車体をコントロールしやすく、さまざまな種類の道路表面に対しても、快適な乗り心地を与えてくれるものです。路上の隆起を越えた後や停止後に弾みが止まらないとき、またコントロールが困難な場合は、新しい緩衝装置かその他の懸架装置の部品が必要かもしれません。修理工にチェックを依頼します。

排気装置 - 排気装置はエンジンからのノイズを下げ、エンジンから出る高温ガスの冷却を助け、このようなガスを車両の後部に移動させます。排気装置に漏れがあると車内にガスが流れ込み、短時間で死亡する可能性があります。ドアを閉めたガレージ内では、決してエンジンをかけたままにはしてはいけません。エンジンがかかった状態の車内に長時間いる場合は、窓を開けます。

排気装置からの漏れは聞こえるものもありますが、多くの場合は聞こえません。このため、排気装置は定期的に点検することが重要です。

エンジン - 正しく作動しないエンジンは、通常時および緊急時に必要なパワーを失う、エンジンがかからない、燃費が低下する、大気汚染の元になる、路上でエンストを起こして問題を起こすなどの可能性があります。メンテナンスは、操作マニュアルで推奨される手順に従います。

固定されていない物 - 車両が急停止したり追突事故が起こったりした際、車内で人にぶつかるような物がないよう確認します。また、ブレーキペダルの下に転がり込んで停止できなくなるような物体が車内の床にないよう、確認します。

クラクション - クラクションは安全性にはあまり役立たないと思えるかもしれませんが、警告装置として、あなたの命を救うことができます。他の人への警告としての使用にとどめておいてください。

ガラスの表面をきれいに保つ

ウインドウ、フロントガラス、ミラーから外がはっきり見えるようにしておくことが重要です。次の事柄を実行してみてください。

- フロントガラスをきれいに保ちます。明るい陽射しやヘッドライトが汚れたフロントガラスにあたると、前が見えにくくなります。液体クリーナーとペーパータオルまたは布を常時用意して、いつでもフロントガラスを掃除できるようにしておきましょう。
- ウインドウ用洗浄液を常にボトル一杯にしておきます。温度が零度以下になるところでは、不凍洗浄剤を使用します。
- 車内で喫煙する人がいる場合は、特にウインドウの内側もきれいに保ちましょう。たばこの煙でウインドウの内側表面に膜ができます。
- 運転する前に、雪や氷、霜をすべてのウインドウから取り除きます。
- ミラーに物を吊るしたり、フロントガラスにステッカーをゴテゴテ貼ったりしてはいけません。視界を妨げる原因になります。
- ヘッドライト、バックアップライト、ブレーキライト、テールライトをきれいにしておきます。表面が汚れていると、光が 50 パーセント遮断されてしまいます。

シートとミラーを調節する

運転の前に、常にシートとミラーの位置を確認し、調節します。

- 視界がさえぎられたり、車両のコントロールの邪魔になるようなら、前部座席に3人より多くの人を乗せて運転してはいけません。前後左右がはっきり見え、コントロール部品にすぐ手が届くこと、またドライバーがハンドルを握ったとき、少なくともハンドルの1/3が両手の間のあるようにします。
- シートは、道路がはっきり見える高さに調節します。必要ならクッションを敷きます。ハンドルが切りにくくなるほど、シートを前に移動させ過ぎないでください。衝突したときに、エアバッグが胸のあたりに当たるように座ります。また、足がブレーキペダルの下にさわられるように座ります。
- バックミラーとサイドミラーを調節します。バックミラーでリアウインドウが見えなければなりません。サイドミラーは、少し前向きにかがむと車体の側面が少し見えるように調節します。こうすることで、あなたの車の後ろの交通状況が見やすくなります。
- 日中/夜間用ミラーを装着してある場合は、運転するときの時間帯に合わせてセットしてあることを確認します。
- ヘッドレストは、後部を追突された時にむちうちを防止するためのものです。後頭部に接触するよう、ヘッドレストを調節します。

シートベルトとチャイルドシートを使用する

ワシントン州では、ドライバーおよび同乗者のシートベルト着用が法律で定められています。運転の前に、あなたがシートベルトを着用しており、同乗者も全員シートベルト、あるいはチャイルドシートかブースターシートを使用していることを確認してください。ドアをロックすることも忘れないでください。

ドライバーや 16 歳未満の同乗者がシートベルトを着用していなかったり、チャイルドシートもしくはブースターシートを着用していなかったりした場合、罰金はドライバーの責任になる場合があります。16 歳以上の同乗者がシートベルトを着用していない場合、罰金は、同乗者の責任です。

更に、法により次の事柄が義務づけられています。

- 1964 年 1 月以降製造の全種類の車両で、ワシントン州で登録している車両には、前部座席にラップタイプのシートベルトが装備されていること。
- 1968年1月以降に製造された乗用車および1972年1月以降に製造されたトラック / 多目的乗用車には、すべての座席にラップおよびショルダーベルトまたはラップベルトが装備されていること。
- 1976 年 1 月以降に製造されたバン、モーターホーム、キャンパー積載のシャシーを運ぶ車両には、全ての座席にシートベルトが装備されていること。

あなたの車両に装備されているシートベルトが2つの部分からなるものなら、両方を必ず、適切に着用し、ショルダーベルトは脇の下や背中の後ろではなく、肩にかかるようにします。ラップベルトは下腹ではなく腰の周りにしめなくてはなりません。どちらか一方しか着用していなければ、防護性が大幅に低下します。ショルダーベルトがオートマチックの場合、必ずラップベルトも装着します。ラップベルトを着用しないと、衝突が起きた際にショルダーベルトから滑り出てしまい、負傷または死亡することがあります。

ドライバーはシートベルトの着用により傷害をさけるだけでなく、車両のコントロールの維持がたやすくなります。横から衝突された場合や急なカーブを切った際、体が横にすべってしまうことがあります。ハンドルの前に座っていないと、ハンドルを切ることができません。

エアバッグが装備されている車両でも、必ずシートベルトは装着してください。エアバッグは、ハンドル、フロントガラス、ダッシュボードに叩き付けられるのを防ぐ一方、横や後部から追突されたり、車両が横転したりする際には役立ちません。また、このような状況下で、ハンドルの前に座ってられるような保護もできません。

3歳未満の乳幼児は、認可済みのチャイルド・カーシートに適切に座らなければなりません。必ず後部座席に座らせるようにします。特にエアバッグが装備されている車両の前部座席に座らせると、追突事故の際にエアバッグが開き、子供が怪我または死亡することがあります。

ワシントン州では、次に示すように適切な子供の保護が義務付けられています。

- 1歳以下の乳児もしくは、20ポンド以下の乳児には、後ろ向きの子供用カーシートを使用する。
- 1～4歳で体重20～40ポンドの子供には、前向きの子供用カーシートを使用する。
- 4～6歳で体重40～60ポンドの子供の場合は、ブースターシートを着用させる。
- 6歳以上または60ポンドを超える子供の場合は、シートベルトかブースターシートを着用させる。

車両の助手席にエアバッグが装備されている場合、6歳以下または体重60ポンド以下の子供は、後部座席に着席させてください。

子供の安全な乗車についての詳細は、1-800-BUCK-L-UP に電話でお問い合わせください。

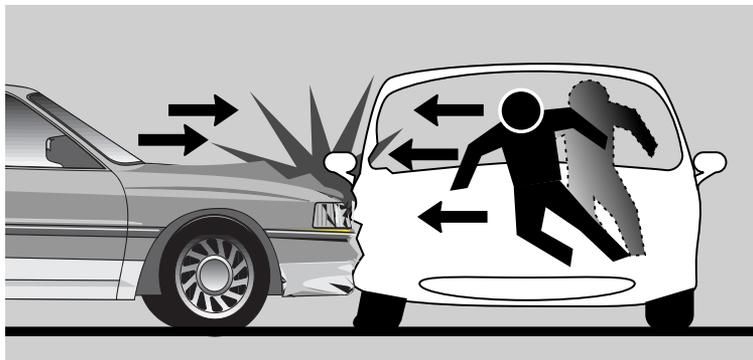
調査によると、事故の際シートベルトを着用していた場合は、負傷または死亡する可能性は大幅に減少します。シートベルトの使用について、次のような**間違った情報**が出回っています。

「シートベルトを締めていると、車内に閉じ込められてしまう。」これは誤りです。シートベルトを外すには、1秒もかかりません。車両に火が付いたり、水面下に沈んだときに車内に閉じ込められるような衝突事故は、めったに起こりません。仮に起こったとしても、シートベルトのおかげで意識不明になるのを防ぐことができます。意識があれば、脱出できる可能性はより高くなります。

「シートベルトは長旅には良いが、市内を走るだけなら必要がない。」誤りです。死亡事故の半数以上は、家から25マイルの範囲内で発生し、またその多くは制限速度45マイル以下の標識のある路上で発生しています。

「衝突事故にあって車から投げ出されても、かすり傷1つなくすんでいる人もいる。」これも誤りです。衝突事故で助かる確率は、車内に残っている方がずっと高いのです。シートベルトを着用していると、他の車両の前に投げ出されるのを防ぎます。

「横から衝突されたら、衝突点から離れた位置に横向きに、投げ出された方が良い。」誤りです。というのは、横から衝突されたら車両が横向きに移動し、車内で固定されていない人や物はすべて、衝突点の反対側ではなく、衝突点に向かって投げ出されるからです。



「低速なら、自分を支えられるから大丈夫。」これも誤りです。時速 25 マイルでも正面衝突で受ける力は、自転車に乗って全速力で煉瓦の壁に衝突するか、3 階のビルから歩道に飛び降りるのと同じです。このような力に耐えられる人は、まず、いないでしょう。